

フランシナ・E・ポーターの横顔

— 北陸学院第一幼稚園創設者の宣教的働きと精神 —

Francina E. Porter's Profile

The spirit and mission work of the founder of Hokurikugakuin First Kindergarten

太田雅子*¹ 齊藤幸子*²

Abstract

“Hokurikugakuin First Kindergarten” which was called “Eiwa” was established in 1886. This year marked the beginning of Christian early childhood education in Japan. The founder of this oldest kindergarten in Japan was Francina Eliza Porter. Ms. Porter was a missionary from the Presbyterian Church of the United States of America. Ms. Porter was born in 1859 and 2009 would have been her 150th birthday. Her heart, spirit and mission work with the Japanese people is profiled. New information about Ms. Porter was obtained from: Maryville College, the Presbyterian Historical Society and San Gabriel cemetery. This paper is presented in two sections: Ms. Porter's Profile and the Porter Institute. Ms. Porter's Profile contains 3 sections: Her background, Work in early childhood education (at Eiwa kindergarten) and Evangelical work. The Porter Institute was established to honor contributions of missionaries related to Hokurikugakuin. The Porter Institute was started in 2007 and its office is located at Hokurikugakuin First Kindergarten. The activities of the institute involve historical research and reports of mission work. A recent project has been creating a memorial marker for Ms. Porter's gravesite for placement at San Gabriel cemetery. The final part of this paper presents an interview with the director of Hokurikugakuin First Kindergarten in order to present her teaching goals and the practices of the school. According to the director, “children pray for one another to show sympathy and faith, also influences parents”. Francina E. Porter devoted 40 years of her life in Japan in ministry and for the development of early childhood education.

キーワード：キリスト教保育／伝道／献身

はじめに

日本におけるキリスト教保育は、今年（2008年）で創始122年となる。創始は1886年（明治19年）であるが、これは北陸学院第一幼稚園の創立年である。それ以前、1880年（明治13年）に桜井女学校附属幼稚園、ブリテン女学校幼稚園の創立があるが、この2園は廃園や途中休園をしており、

北陸学院第一幼稚園が、経営母体がそのままに継続し現存する幼稚園という観点から日本最古のキリスト教主義幼稚園であり、日本におけるキリスト教幼児教育・保育の始まりと位置づけられている。⁽¹⁾

北陸学院第一幼稚園は、創立時には「英和幼稚園」という名称であった。＜1912年（大正1年）に北陸女学校附属幼稚園、1948年（昭和23年）に北陸学院幼稚園、1950年（昭和25年）に北陸学院保育短期大学附属幼稚園、1953年（昭和28年）に北陸学院保育短期大学附属第一幼稚園、1963

*¹ Masako OOTA
北陸学院大学 人間総合学部 幼児児童教育学科
保育原理

*² Sachiko SAITO
北陸学院ポーター研究所

年（昭和38年）に北陸学院短期大学附属第一幼稚園に、2008年（平成20年）に北陸学院第一幼稚園と名称変更がなされている。> ⁽²⁾

創設者は米国プロテスタント（長老派）宣教師のフランシナ・エリーザ・ポーター（Francina Eliza Porter）である。2009年は、ミス・ポーターの生誕150年、且つ没後70年の記念すべき年となる。そこで、改めて彼女のプロフィール・横顔を映し出してみたい。サン・ガブリエル墓地（San Gabriel Cemetery）管理事務所、メリーヴィル大学（Maryvill College）図書館アーカイブス、米国長老派教会歴史協会（Presbyterian Historical Society）からの資料提供により、今回いくつかの事実が明らかになった。この試みにより、北陸学院第一幼稚園の創設者が抱いた志と精神をよみがえらせたと思う。

I フランシナ・E・ポーターのプロフィール

1. バックグラウンド

(1) 誕生と死去

ミス・ポーターは1859年（安政6年）6月1日、米国テネシー州ライスヴィル（Riceville）に生まれ、同州のマディソンヴィル（Madisonville）に育つ。1939年（昭和14年）3月17日、昇天。米国カリフォルニア州のサン・ガブリエル墓地に葬られる。⁽³⁾

(2) 宣教師としての準備 - 大学での学びと派遣

ミス・ポーターは、1882年（明治15年）に米国長老派教会海外伝道局宣教師の任命を受けて日本に派遣され、同年12月27日横浜港に到着している。その準備教育として1875年から1877年の2年間をテネシー州にある米国長老派教会系のメリーヴィル大学のEnglishとLadies Preparatory Courseで学んでいる。卒業後、短い期間であるが教師としても働いている。当時のニックネームがCinaであったことが、メリーヴィル大学の会報からわかる。⁽⁴⁾ 5歳年長で同時期にメリーヴィル大学で学んだ実兄ジェームス・B・ポーター（James Boyd Porter）より1年遅れて日本に来ている。金沢への移動申請に対する許可が下りるまでの横浜滞在中の数ヶ月間、ミス・ポーターは、日本語の習得の傍ら、通訳を用いて中国人の子ど

ものための日曜学校で教え、さらなる要望に応じて中国人の青年たちにも教えている。⁽⁵⁾

(3) 金沢時代

ミス・ポーターは1883年（明治16年）11月、私立愛真学校英語教師として金沢に着任する。愛真学校は、同じ米国長老派教会からのトーマス・ウイン宣教師（Dr. Thomas Clay Winn）が1883年（明治16年）に創設した男子中学校である。11月13日、殿町56番地に於いて、入学者30名にて開学している。1885年（明治18年）に広坂通12番地（旧県庁舎と郷土史館の間）に新校舎が落成し北陸英和学校と改称した。ジェームス・B・ポーターはここでの責任者代理を務めていた。1884年（明治17年）に入学し洋風校舎に通う若き日の泉鏡太郎（鏡花）は26歳のミス・ポーターに深い印象を受け「名媛記」の中で馬に乗る“りりか”で登場させている。母に似た理想の女性として、ミス・ポーターは彼の作品の女性像の原型となっている。⁽⁶⁾

ミス・ポーターは子どもたちのために日曜学校を開くが、これは金沢における日曜学校の第一号であった。⁽⁷⁾ さらにかねてより幼児教育の必要を本国に打診していたミス・ポーターは伝道局から三千円の送金を得て1886年（明治19年）10月11日、下本多町6（現金沢市立ふるさと偉人館）に英和幼稚園と英和小学校を創設する。幼稚園から小学校の10年一貫教育を開始したのである。小学校は金沢市より模範学校の指定を受け1896年（明治29年）に創立十周年を祝っている。ところが、三年後の宗教教育禁止の文部省令により私立英和学校と改称し再出発するが、キリスト教教育を貫いたため各種学校に格下げとなった。これにより中学進学に不利な扱いを受けて入学者が激減、1903年（明治36年）に廃校となる。しかし58年後の1961年（昭和36年）北陸学院小学校として再興され今日に至る。⁽⁸⁾

英和小学校の1900年（明治33年）の卒業生名にダンテ研究で知られている中山昌樹の名前がある。その後明治学院に進みキリスト教学界に残した彼の業績を考えると、ここにもミス・ポーターの感化があったことがわかる。⁽⁹⁾

1900年（明治33年）病氣療養のために帰国。

英和小学校廃校の知らせをアメリカで受けたミス・ポーターは一晚泣き明かしたという。⁽¹⁰⁾

(4) 京都時代

健康を取り戻したミス・ポーターは1910年(明治43年)に再来日する。この時は京都に赴任している。室町幼稚園及び西陣幼稚園(両園は戦時中に廃園となる)において保育に従事する。⁽¹¹⁾ 一方伝道活動に意欲的であった。彼女のバイブルクラスは大変人気があり、教え子たちは大学や自治体のリーダーとなった。50歳を過ぎてからの赴任であったが、ミス・ポーターの健康状態は極めて良かったことが、伝道局への健康に関するレポートからうかがえる。⁽¹²⁾

西陣幼稚園は西陣織の職工として母親が働くために保育を必要とする家庭の子どもたちを対象としていた。金沢の英和幼稚園には上流階級の子弟が多かった点と比較すると、ミス・ポーターの関心が、さらに弱く小さい者たちに向けられていることがうかがえる。⁽¹³⁾

ミス・ポーターは1926年(昭和1年)11月には英和幼稚園創立40周年記念式典に出席するため京都より金沢を訪れている。満面笑みの67歳の先生をライザー園長とかつての主任保母・吉田えつが囲む写真が残されている。⁽¹⁴⁾

1929年(昭和4年)日本での任務を終え、帰国。“honorably retired” - 誉れある引退であった。⁽¹⁵⁾

1925年(大正14年)に日本へ再渡航する直前の写真や日本での宣教期間等を記載した直筆の文書が米国長老派教会歴史協会に保管されている。⁽¹⁶⁾

(5) 引退後

満70歳を迎えたミス・ポーターは、米国カリフォルニア州、パサデナ市(Pasadena)にある米国長老派教会引退牧師・宣教師のための施設モンテ・ヴィスタ・グローヴ・ホームズ(Monte Vista Grove Homes)で余生を送る。⁽¹⁷⁾ 1933年ごろにstroke(脳卒中)で倒れ、これが原因で視力がかなり衰える。1935年(昭和10年)2月1日付ミス・ライザー宛の手紙には視力が衰えた為代筆を頼んだと書かれている。⁽¹⁸⁾ ミス・ポーターは1939年の2月の終わりに2回目の、さらに3月2日に3回目のstrokeに襲われ、3月17日に息を引きとる。

79歳と9ヶ月であった。⁽¹⁹⁾

2. 教育の働き - 英和幼稚園におけるキリスト教保育

(1) 開園

ミス・ポーターは英和幼稚園開設に当たって、桜井女学校で保母の養成を行っていたミセス・ツルー(Mary T. True)から助言を得ていた。ミセス・ツルーは1879年(明治12年)にウイン宣教師と金沢入りし、2年間啓明学校(石川県師範学校)で教えた経験もあり地元の事情に通じていた。ミス・ポーターから保母に成るべく要請を受けたひとりのバイブルウーマン・吉田えつ(後の春日)が名古屋から上京して桜井女学校幼稚保育科において、ミス・ミリケン(Elizabeth P. Milliken)の指導のもとに保育を学ぶ。学費等諸費用はミス・ポーターが負担している。1886年(明治19年)の7月に幼稚園教師の資格を得た吉田えつを迎えにミス・ポーターは上京。金沢への帰路の途中、コレラの検閲を受け、園児用にせっかく買求めた土産物が石炭酸を浴びたために棄てざるを得なかったという憂き目に会った。⁽²⁰⁾

発起から三年、16名の入園児を得て1886年(明治19年)10月11日(月)に英和幼稚園は開園を迎えた。県令の岩村氏や陸軍少尉の岡本氏の子が入園したことが評判を呼び、小さな園舎・広坂通の民家(松原茂雄氏の借家)は志願者でいっぱいとなった。県の有力者・知識人が子女を入園させたことが、宣教師の幼稚園に対する信用に繋がった。二年後に職員住宅も兼ねた二階建の園舎が新築された。これは米国フィラデルフィア教会の援助によるものである。⁽²¹⁾ 下本多町六番丁18番地の園舎はルーサー園長(I.R. Luther)、フルトン園長(A.S. Fulton)、ジョンストン園長(J.M. Johnstone)からライザー園長(A.I. Reiser)へと受け継がれ、70年間園児を見守り続けた。⁽²²⁾

(2) 保育内容

主任の吉田えつ及び保母の富田きんの二人が桜井女学校幼稚保育科に学び、吉田えつの後任の橋本華子が女子学院附属幼稚園の保母経験者であることから、英和幼稚園の保育は創立当時からミリケン方式を採用していた。キリスト教を基盤に据

え、フレーベルの理論を中心に人格形成のための教育を行った。西洋から導入された「遊戯」「クリスマス劇」や「英語の歌と讃美歌」を園児全員が、のびのびと声高らかに歌い身体全体で表現していた。「かくれんぼ」もこの頃導入された。園児たちは鞠投げや砂遊びにも興じた。自由に歌って踊って、そしてお昼はみんなでベンチに腰かけ、テーブルにお弁当を置いて、お祈りをして食した。幼い子どもたちの園生活は知らず知らずに神への祈り、友を思いやる心、自分のことは自分でするという自立の精神へと導かれて行った。ミス・ポーターは独自の創作遊戯を考案した。朝と夕方にラッパを吹いて通る豆腐屋さんを真似て「豆腐マンの楽隊」を編成、ラッパを吹く子、太鼓を打つ子、旗を掲げる子から成る楽隊であった。園児それぞれに色々な花を配り英語で花の歌を教えたり、果物を食べさせ、その味によって果物の名を当てさせるなどの生活に密着した活動も取り入れていた。⁽²³⁾ 英語の歌は意味を理解させ「農夫の歌」や「飛べ飛べ小鳥」に動作をつけ、歌いながら踊った。雪深い北陸の長い冬を室内で楽しく過ごすために色々な工夫がなされていた。オルガンに合わせてのリズム活動などを行った。男児は長箒を持ち女児は扇子を持って活発に遊んだ。欧米から取り寄せた遊具、英語で書かれた絵本、美しい舶来の紙、園児たちは見たこともない美しい色に魅せられた。僅かに残る当時の写真からは活気にあふれた園児の歓声が聞こえてくるようである。卒園証書はミス・ポーターの自筆によるもので、紫のリボンで結わえて園児に渡された。こうした配慮が思い出となって園児の心に刻まれた。⁽²⁴⁾ 証書の最初の部分には、フレーベルの言葉の英訳「Come let us with our children live」が書かれている。⁽²⁵⁾

(3) 幼稚園の環境

設立するなら完全な幼稚園をというミス・ポーターの熱意から、園児を取り巻く環境に対しても十分な配慮がなされた。新園舎の緑の屋根と白い壁の西洋建築は園庭の木々と調和していた。60種類の樹木は新緑と共に小鳥たちを呼び込み、宣教師たちが好んで作った花壇にはパンジーが咲き乱れ、園児たちは四季折々の変化を感じる日々の中で育まれた。⁽²⁶⁾ 20年ぶりに園舎を訪れた詩人・

中原中也がクローバーでよく花束を作ったことを懐かしがっている。⁽²⁷⁾ 園庭にはブランコが2台と腕の力を強くするため鉄環（鉄棒か）が設置されていた。冬の長い北陸であるため、気候の良い時期にはできる限り戸外で遊ぶことを奨励していたのであろう。園庭で子どもたちは形の違う木の葉を集め、これに粘土を押し当てて切り取って遊んだり、石盤の上に水で濡らした毛糸を載せて箸で動かして色々な形を作ったり、緑の芝生の上に皆が輪になって座り、お話しを聞いたり、歌を歌ったりした。一階の園舎には園児が自由に遊べる広いホールと給食室、医務室が配置されていた。天井は高く充分な陽が差し込み、窓にはフリルのある白いカーテン、床には園児が怪我をしないよう赤いマットが敷かれた。冬の暖房には薪ストーブが焚かれ、和式便所は園児が下へ落ちてはならないと白い陶器の大きな鉢が用意された。母の会が毎月持たれ、園児が安全で活発に遊べるようにパンツや簡単な子供服の作り方が指導された。こうした保護者への働きかけによって園児の着物の袂が滑り台の端に引っかかる危険はなくなった。また、簡単な西洋料理やジャムやパンの作り方も教えられた。食事やおやつにおける栄養のバランスについての助言もなされた。⁽²⁸⁾

3. 伝道の働き

ミス・ポーターは、イエス・キリストの福音を伝えるべく米国長老派教会海外伝道局より派遣された宣教師であった。伝道局の資料によると、初期の日本での宣教はきわめて困難であり、宣教師たちは日本人から誤解を受け、怪しまれたり毛嫌いされていた。金沢については、1879年（明治12年）に宣教活動が開始されている。西海岸の最大都市であり保守的な仏教の拠点であると記載されている。⁽²⁹⁾

ミス・ポーターが英和幼稚園・英和小学校での伝道の働きを通して、子どもたちの中に信仰が芽生えている様子を見て喜んでることが、1935年のミス・ライザー宛ての手紙の文章からわかる。⁽³⁰⁾ 「新しい建物で幼稚園が開始し、嬉しい時を過ごしました。私たちは金曜日の朝には、いつも祈りのための特別な時間を持っていました。新しい園舎に移った最初の金曜日に子どもたちから、素敵

な新しい建物が与えられたことを感謝する集会を開いて欲しいと頼まれました。」筆者（太田雅子）訳。このように幼稚園や小学校での伝道活動を通して、何人かの子どもたちが大変積極的なクリスチャンになったことも手紙の中に記されている。

京都においてはミス・ポーターは、もっぱら伝道の働きを担っており、バイブルクラスを通して若者たちを信仰に導いている。1926年（昭和1年）5月7日付の米国長老派教会海外伝道局への報告書の中に、そうした様子が次のように記載されている。⁽³¹⁾「青年男子たちのバイブルクラスでは部屋が満員になります。ですから障子の扉を開けてベランダをつけ、狭い部屋を広げるために、温かな季節がやってくることを待ち望んでいます。新しい家が完成すれば、それほど混雑することはなくなるでしょう。全員が入る部屋ができます。今のところは24名が入会しており、参加者の平均人数は15名です。その内の半分がクリスチャンであり、新たに参加した人々をキリストに導こうと大変熱心です。このような理由でクラスを分けるのは賢明でないように思われます。新しい家に移った後には、新たなクラスをスタートさせるつもりです。この丸2年の間、仏教の大学からはひとりも参加者がなかったのですが、11月に5名が入りました。継続的に来ている一人の京都の学生の友人たちです。この青年たちは聖書の学びに対して深く関心を寄せているように思われます。貸し出し用図書の中から最良の本を読んでいます。『キリストの生涯』『パウロの生涯』など多くの有益な本を読み終えています。彼らがキリストのぶどう園での働き人となれるように祈ってください。」筆者（太田雅子）訳。

II ポーター研究所

1. 発足の経緯

ポーター研究所は北陸学院に關係する宣教師たちの功績を称え、その志を継承する為に2007年（平成19年）1月、前北陸学院院長・井上良彦氏の下に発足し、北陸学院第一幼稚園内に事務局が置かれた。

発足に至るきっかけは、ミス・ポーターの肖像写真を偶然に発見したことである。筆者（齊藤幸子）が、北陸女学校（現・北陸学院高校）の資料

を整理していた時、第3回生（1892年・明治25年卒）の田村すて氏の遺品の茶封筒の中に一枚の写真を見つけた。縦16・5センチ、横10・5センチで5ミリの台紙付の着物姿の外国人女性が英和幼稚園と英和小学校の創始者であるミス・ポーターであることは直ぐに判明した。1世紀以上もの間眠っていた写真との遭遇が、ミス・ポーターの功績を顕にすることへの思いに駆り立てたのである。

ミス・ポーターの最初の勤務校愛真学校において文豪・泉鏡花が慕った女性教師であることはよく知られていたため、同窓会会長の戸上千枝子氏はこの写真を泉鏡花記念館に寄贈した。さらに贈呈の次第が新聞に掲載されたことで、出版社からも問い合わせがあり「石川の人名辞典」にミス・ポーターの名前が記録され、石川県の幼児教育の先駆者としてミス・ポーターは広く金沢市民の知るところとなった。

当初、ミス・ポーターの写真が女学校の卒業生が所持していたことが不思議であった。しかし直ぐに、ミス・ポーターが英和幼稚園の運営に邁進していた15年間に、園児の世話や教育に当たった有能な働き手は殆ど女学校の卒業生だったということが判った。1901年（明治34年）までに女学校在籍した者は577名、その内卒業した者は僅か45名であったが、その一割が保母の道へ進んでいたのである。1950年（昭和25年）に北陸学院保育短期大学が北陸における最初の幼児教育者養成機関として発足するまでの44年間、女学校の卒業生は東京、神戸、広島の保母伝習所を経て北陸女学校附属幼稚園に奉職している。⁽³²⁾

2. ポーター研究所の事業・活動

2007年の発足以降、現在までの活動を以下に記す。

(1) ミス・ポーターに關係する歴史的調査・報告文書の作成。

① 「中山昌樹と英和小学校」

ダンテ、カルヴァン研究の金字塔をうち立てた中山昌樹は英和小学校に学んでいる。「中山昌樹は私の子供です。」とミス・ポーターは語っている。⁽³³⁾

② 「中原中也と英和幼稚園」

2007年は日本の近代詩人中原中也生誕100年であった。今回は中原中也が入園した1913年(大正2年)を中心にまとめた。

③「東洋伝道とミッション・スクール」石川県で奉職した50名の宣教師たちの功績を中心にまとめた。

(2) ミス・ポーターの墓碑建立事業

ミス・ポーターは1939年に死去し、カリフォルニア州のサン・ガブリエル墓地に葬られたが、その時以来墓碑は設置されていなかった。1981年に元北陸学院短期大学非常勤講師・小林道子氏が墓地を訪れた際、墓石もボードもなく芝生が広がるばかりだったことを「北陸学院100年のあゆみ」に寄稿し伝えている。⁽³⁴⁾1998年に筆者(太田雅子)がサン・ガブリエル墓地を訪問した時にも墓碑がないことを確認した。オフィス・マネージャーの話によれば、当時のアメリカは世界恐慌の影響から経済的に困窮し墓碑を作る余裕がなかった人々が多数おり、ミス・ポーターもそのひとりと推測されるとのことであった。

2007年より墓碑建立計画を実施し、募金活動を開始し、多くの人々の協力を得て2008年夏に墓碑が完成した。2009年3月には、現地においての墓碑建立記念式典を計画している。

おわりに

北陸学院第一幼稚園の副園長である出村り子氏は、今の時代におけるキリスト教保育の重要性を次のように語っている。⁽³⁵⁾園児一人ひとりには神から託された大切な存在であると捉えて日々の保育にあたっている。神が私たちが愛されたことに応えて、互いに愛し合う生き方が培われることを目標としている。子どもにとって、自分自身が大切な存在として受け入れられていると感ずることが、他者を受け入れることに結びつくと理解している。毎日の礼拝を通して、命を与え守り支えて下さる神に対する感謝や他者を愛する心が、子どもたちのうちに育って来ている。幼稚園では月ごとの聖句の暗唱を行っている。『人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい』という聖書の言葉を覚えた4歳クラスの子どもが、クリスマスの時期に母親にこう告げた。自分は神さまから大切なものをたくさんもらって

いるが、その中でも人を助ける力を与えられていることが一番うれしい。友だちが転んだとき、大丈夫かと手を貸してあげられるからだと言うのである。別のエピソードもある。3歳クラスの子どもが、家でひとり祈っていた。母親がそっと近づいて祈りを聞いてみると、弟を抱っこすることができる手を与えてもらったことを感謝していたのである。他にも、病気で幼稚園を休んでいる友だちのために祈っている我が子の姿を目にして感動したことを母親たちが報告している。子どもたちは神の言葉を素直に受け入れ、それを実践している。こうした子どもの信仰が親に影響を与え伝道に繋がっているに違いないと出村氏は話す。

ミス・ポーターが晩年にライザー園長に送った手紙は次の文章で締め括られている。⁽³⁶⁾

「It is very gratifying to me to know how the kindergarten has been blessed and what good work is still being done there; 幼稚園が祝福され続け、そちらにおいて何とも良い働きが今も変わらず行われていることを知ることが出来、私は大変満足しています。」筆者(太田雅子)訳。

ミス・ポーターが日本のキリスト教保育の発展と宣教のために献身した歳月は40年に及んだ。

<引用文献>

- 1) キリスト教保育連盟百年史編纂委員会(1986)『日本キリスト教保育百年史』社団法人キリスト教保育連盟 序文
- 2) 北陸学院幼稚園創立100周年記念写真集編集委員会(1986)『北陸学院幼稚園100年の歩み』学校法人北陸学院
- 3) Maryville College Library(1934)“Maryville College Bulletin vol.33” Maryville college(2008年に筆者に提供されたコピー)
- 4) The Editorial and Publicity Division of The Board of Foreign Missions of the Presbyterian Church in the United States of America((1939)“Death of Miss Francina E. Porter” Presbyterian Historical Society(2008年に筆者に提供されたコピー)
- 5) 同上
- 6) 日本キリスト教歴史大辞典編集委員会(1988)『日本キリスト教歴史大辞典』教文館 P1286
- 7) The Editorial and Publicity Division of The Board of Foreign Missions of the Presbyterian Church in the United

- States of America 前掲
- 8) 北陸学院 100 年史編集委員会 (1990) 『北陸学院 100 年史 (部局史)』 学校法人北陸学院 P432
- 9) 池上鋼他郎・編者 (1936) 『北陸 50 年史』 金沢女学校 P311
- 10) 北陸学院 100 年史編集委員会 (1990) 『北陸学院 100 年史』 学校法人北陸学院 P128
- 11) 小林恵子 (2003) 『日本の幼児教育につくした宣教師 - 上巻 -』 キリスト新聞社 P231
- 12) The Board of Foreign Missions of the Presbyterian Church in the U.S.A. (1909) "PHYSICAL REPORT" Presbyterian Historical Society (2008 年に筆者に提供されたコピー)
- 13) 小林恵子 (2003) 前掲 P232
- 14) 小林恵子 (2003) 前掲 P233
- 15) The Editorial and Publicity Division of The Board of Foreign Missions of the Presbyterian Church in the United States of America 前掲
- 16) The Board of Foreign Missions of the Presbyterian Church in the U.S.A. (1924) "PERSONAL RECORD OF Francina E. Porter" Presbyterian Historical Society (2008 年に筆者に提供されたコピー)
- 17) San Gabriel Cemetery 「埋葬記録」の住所をもとに筆者 (太田雅子) が現地にて調査。
- 18) 池上鋼他郎・編者 前掲 「幼稚園の思い出」 P303～307
- 19) The Editorial and Publicity Division of The Board of Foreign Missions of the Presbyterian Church in the United States of America 前掲
- 20) 池上鋼他郎・編者 前掲 P312
- 21) 北陸学院 100 年史編集委員会 前掲 P122
- 22) 北陸学院幼稚園創立 100 周年記念写真集編集委員会 前掲
- 23) 小林恵子 (1984) 「最初の私立幼稚園に関する一考察 (その四) - 英和幼稚園を中心に」 『日本保育学会第 37 回大会研究論文集』 P63
- 24) 小林恵子 (2003) 前掲 P217～220
- 25) 北陸学院幼稚園創立 100 周年記念写真集編集委員会 前掲
- 26) 小林恵子 (2003) 前掲 P221～222
- 27) 中原中也 (1967) 「金澤の思ひ出」 『中原中也全集 3』 角川書店 P379～380
- 28) 小林恵子 (2003) 前掲 P216～223
- 29) Presbyterian Historical Society "United Presbyterian Church in the U.S.A. Commission on Ecumenical Mission and Relations. Secretaries' files: Japan Mission, 1879-1972" Presbyterian Historical Society のホームページからの検索資料
- 30) 池上鋼他郎・編者 前掲 P303～307
- 31) The Board of Foreign Missions of the Presbyterian Church in the U.S.A. (1926) "REPORT FOR 1925 AND 1926" Presbyterian Historical Society (2008 年に筆者に提供されたコピー)
- 32) 齊藤幸子 (編者) (2005) 『女学校と同窓会』 戸上千枝子 (北陸学院同窓会会長)
- 33) 北陸学院 80 年誌編纂委員 (1936) 『北陸学院 80 年史』 北陸学院 P14
- 34) 北陸学院 100 年史編集委員会編 (1985) 『北陸学院 100 年の歩み: 創立 100 周年記念誌』 北陸学院 P133
- 35) 筆者 (太田雅子) が 2008 年 9・10 月に北陸学院第一幼稚園に於いてインタビューを行った。
- 36) 池上鋼他郎・編者 前掲 P303～307